

ろうさい ニュース

平成 30 年

7 月号

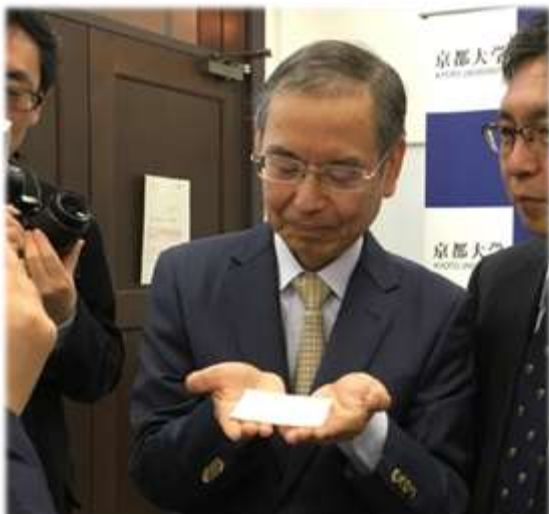
第 407 号

■新規人工皮膚を使用した治療を本年 7 月から開始します

病院長 鈴木 茂彦

私が京都大学形成外科在籍中に開発し、医師主導治験を行った新規機能性人工皮膚（真皮）が本年 4 月 10 日に製造承認されました。この人工皮膚は、血管増生効果のある線維芽細胞増殖因子を徐放できる機能を付加したもので、人口の高齢化に伴い急増している糖尿病性足（下腿）潰瘍や褥瘡などの難治性皮膚潰瘍に対して治療効果があります。同 4 月 16 日に、記者会見を行い読売、毎日、日経、中日、静岡新聞など多くの全国紙、地方紙で報道されました。

この新規人工皮膚は来年 1 月に全国で販売開始される予定ですが、浜松労災病院形成外科では 7 月から先行してこの新規人工皮膚を使用した治療を開始いたします。難治性皮膚潰瘍のみならず重度の熱傷や深い皮膚欠損創の治療にも有用ですので、患者さんがおられましたらご紹介をお願い申し上げます。



平成 30 年 4 月 16 日
京都大学における鈴木院長らの記者会見

■血管成長促し皮膚修復

血管の形成を促して、皮膚を早期、効果的に修復できる新しい人工皮膚「ペルナック Gプラス」を京都大のチームが開発し、国の製造承認を受けたと16日発表した。

やけどやけがで皮膚を失った人や、糖尿病性潰瘍で皮膚が欠損した患者らが対象で、来年1月から本格的に発売を開始する予定。

人工皮膚はコラーゲン、セラチンなどでできたシートで、血管の成長を促すタンパク質を含んだ液を使用前に散布する。

皮膚の欠損部に合わせて貼り付けると、タンパク質が1週間ほどかけて少しずつ患部に作用し、血流を再開、活性化させて皮膚修復を促進する。

平成 30 年 4 月 17 日 静岡新聞朝刊より
共同通信配信

■ 消化器内科のご紹介

消化器内科部長 大田 悠司

先生方はじめ関係者の皆様方には日頃より大変お世話になりありがとうございます。

一時は常勤医不在となり、非常に深刻な状況となった当科ではございますが、地域の先生方のご支援もあり、平成 26 年度以降当科における内視鏡件数・入院患者数・外来患者数・紹介患者数は継時的に増加しており、昨年度は超音波内視鏡針生検、ラジオ波焼灼術など特殊検査や処置も増加しました。皆様方の多大なご協力に大変感謝しております。

本年度より常勤医師が前年度の 4 人から 3 人となり、やや苦しいところはありますが、検査数枠や、患者さんの受け入れなどを継続することにより、地域社会への認知や信頼を得られればと考えております。

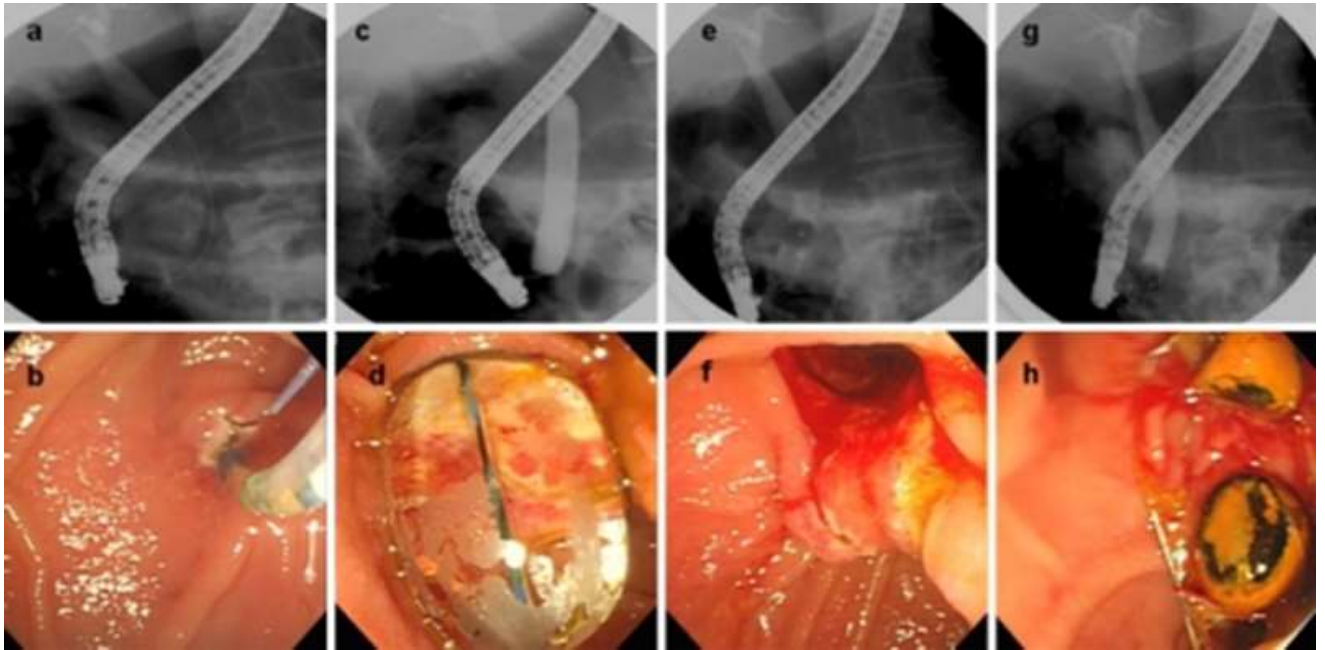
当科の検査や処置には内視鏡によるものが多く、近年の機器の進歩や手技の発展は目覚ましいものがあります。我々は積極的に新しい知識・技術の習得や最新機器の導入を行い、患者さんの負担を抑えた安全、安心の診断と治療の提供を目指しております。

1 例として、下記に**内視鏡的乳頭ラージバルーン拡張術 (Endoscopic papillary large balloon dilation:EPLBD)**をご紹介します。

内視鏡的乳頭ラージバルーン拡張術 (Endoscopic papillary large balloon dilation:EPLBD)

総胆管結石に対する内視鏡治療は、内視鏡的乳頭括約筋切開術 (Endoscopic sphincterotomy:EST) や内視鏡的乳頭バルーン拡張術 (Endoscopic papillary balloon dilation:EPBD) による乳頭処置後に、バスケットカテーテルやバルーンカテーテルを用いての採石(結石除去術)、または機械的砕石具での破碎・排石するのが基本であります。従来の EPBD には 6-8mm 以下の乳頭拡張用バルーンが用いられてきましたが、2003 年に Ersoz さんから巨大結石や積み上げ結石などの治療困難結石に対して、EST 後に消化管拡張用の大口径のバルーン(ラージバルーン) (12-20mm) を用いて胆管開口部を拡張して排石を行う、内視鏡的乳頭ラージバルーン拡張術 (Endoscopic papillary large balloon dilation:EPLBD) が報告され、その後韓国や本邦をはじめとして行われ、現在では世界的に広がっています。日本でもラージバルーンは 2012 年 6 月に乳頭拡張用として薬事承認が得られ、今後さらに普及していくものと考えられています。

EPLBD は、カニューレ後 12-20mm のバルーンで乳頭部を 30 秒間ほど拡張して胆管胆石等の治療を行う方法です。その適応は、10mm 以上の胆管結石、多数の積み上げ結石とするのが一般的です。禁忌は、出血傾向を有する症例、下部胆管の狭窄例です。下部胆管径が細い例は穿孔の危険があり対象となりません。用いるバルーンは、圧によって径の調節が可能な 12 ~15mm、 15 ~18mm、 18 ~20mm を胆管径に合わせて使い分けます。



Youn YH et al. Dig. Dis. Sci. (2010)

30 文献における EPLBD の成績は、初回の完全採石成功率は 84.0% であり、全体の採石成功率は 96.5% でした。平均内視鏡治療施行回数は 1.20 回で、機械式碎石術を要したのは 14.1% です。偶発症は全体で 8.3% にみられ、膵炎 2.4%、出血 3.6%、穿孔 0.6%、その他 0.2% であり、死亡率は 0.2% でした。EST と EPLBD の比較では、採石成功率、偶発症はほぼ同等でしたが、EPLBD のほうが 10-15mm 以上の結石の治療においては優れていると報告され、また碎石具の使用率や処置時間の短縮や処置回数の減少が期待されています。

まだまだ更なる症例の蓄積や長期的な検討が望まれる新しい手技であるため、当院においても症例を絞り、非常に大きな結石がある症例や大きな結石が多数ある場合に施行しております。

当院では巨大総胆管結石の症例や多数の結石による積み上げ結石などに対し、積極的に同処置を施行しております。適応症例などありましたら是非ご紹介いただきますよう、お願い申し上げます。

私共としましては、一人でも多くの患者さんに喜んでいただける診療科として地域医療の貢献に尽くしてまいり所存でございます。今後とも皆様方のご支援、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

第19回浜松EAST看護連携会の開催について

平成30年7月9日(月)に、浜松EAST看護連携会を下記のとおり開催いたします。今回は「最新の皮膚難治性潰瘍治療について」をテーマに当院鈴木院長が講演いたします。皆様のご参加をお待ちしております。

記

日 時：平成30年7月9日(月) 15:00~16:00
場 所：浜松労災病院 6階 大会議室
講 師：浜松労災病院長 鈴木 茂彦

第33回浜松EAST医療連携セミナーの開催について

平成30年7月25日(水)に、浜松EAST医療連携セミナーを下記のとおり開催いたします。今回は「内科医が診る不眠障害」がテーマです。皆様のご参加をお待ちしております。

記

日 時：平成30年7月25日(水) 19:30~20:40
場 所：浜松労災病院 6階 大会議室
講 師：浜松医科大学 内科学第一講座 教授 宮嶋 裕明 先生

第71回浜松労災病院学術集談会の開催について

平成30年8月1日(水)に、浜松労災病院学術集談会を下記のとおり開催いたします。当院鈴木病院長により「形成外科の先端医療へのチャレンジと人工皮膚開発」と題して、特別講演を予定しています。皆様のご参加をお待ちしております。

記

日 時：平成30年8月1日(水) 16:00~
場 所：浜松労災病院 6階 大会議室
特別講演：浜松労災病院長 鈴木 茂彦

第34回浜松EAST医療連携セミナーの開催について

平成30年8月8日(水)に、浜松EAST医療連携セミナーを下記のとおり開催いたします。今回は、本紙面にて紹介した「創傷、熱傷、褥瘡その他の皮膚潰瘍の治療～再生医療の応用も含めて～」について、当院鈴木病院長による講演です。

皆様のご参加をお待ちしております。

記

日 時：平成30年8月8日(水) 19:30~20:40
場 所：浜松労災病院 6階 大会議室
講 師：浜松労災病院長 鈴木 茂彦

独立行政法人 労働者健康安全機構

電話 053-411-0366

受付時間

浜松労災病院 地域医療連携室

fax 053-411-0315

月~金 8:15~18:00 土 8:15~12:00